

令和2年度第2回秋田県生涯学習センター運営委員会（書面会議）

令和3年2月10日

1 開会のあいさつ（所長）

令和2年度第2回秋田県生涯学習センター運営委員会を開催するに当たり、ひと言ご挨拶申し上げます。運営委員の皆様には、日頃より貴重なご助言・ご支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。

第1回委員会（7/11）から半年あまりが経ちました。その頃すでにコロナの渦中にあり、4/21～5/11間の休館、6月末にスマカレ開講宣言し、7月に学習スペース、交流スペースを記名の協力をいただきながら開いたころでした。その中にあって、「明日はきっとよくなる」と希望的観測がありましたが、現実には厳しい「今」を迎えています。

参考に引用（7月の挨拶）辛いことの多いこのコロナ禍において、「よいところ探し」をするとしたら、「増やすこと」「進むこと」こそ善であるかのような社会において、立ち止まり、見直すことが必要となり、見過ごしにされてきた社会的課題について解決に向けた一歩を踏み出そうとしている点だろうか。

11月にはCNA様の協力を得てセンター開所40周年等を記念する大会を成功裡に終えることができました。今やリモートの補助無しには成立しないというのが現状でしょうか？ 記念大会の終わりの挨拶で、生涯学習の始まりの言葉を紹介—『秋田の生涯教育』小畑勇二郎著—より引用しました。

社会をよくしていく人間はどんな人々だろう？それ（社会をよくしていく）には、経済的に政治的に文化的にすぐれた人間も必要ではあるが、それは一握りの人間で間に合うかも知れない。飛躍した言い方だが、この社会をよくしていくのは「心の豊かな」人々だと思う。心の豊かな人とは、人生への充実感を持った人ではなかろうかと、私は思う。本当に満足できる何かを求めている人の心は豊かである。（P34）

そして、生涯学習の豊かさを表現した小畑氏の句「行けど行けど果てしも見えぬ花野かな」を紹介しました。※季語「花野」とは「秋草の咲き乱れている野」のこと。生涯学習の無限の豊かさを表現している。

「故きを温ねて新しきを知る」と言うが、現代における「豊かさ」を創り出す必要があると感じます。また、憧れの強さ、求める思いの豊かさにおいて、我々は負けていないか？先人の熱量、温もりを引き継ぐためにどうするかという視点も根本的で大切なものと思われます。

本日は、様々な視点から、当センターの今後の運営に対する忌憚のないご意見やご助言をお願いいたします。本委員会が実りのあるものとなりますようお願い申し上げます。

2 令和2年度事業の概要について（副所長）

今年度の事業の概要について説明いたします。

今年度は、昨年度末からの新型コロナウイルス蔓延防止対策により、臨時休館や利用の変更がありました。

各事業全般に共通のこととして、3密を避けるため、講堂・各研修室等の定員と座席の配置の見直しを図り、机1つにつき1人の座席と利用後の消毒、利用者にはマスクの着用、換気の奨励、メンバーの把握、体調不良の際には利用を遠慮していただく等の徹底を図ってまいりました。新型コロナウイルスの警戒レベルが2から3に引き上げられたのに伴い、再び利用制限を厳しくしております。詳細については、「美の国ネット」の生涯学習センターをご覧ください。

また、職員には検温を含め健康管理と手指消毒、執務室の換気の徹底と在宅勤務を奨励してきました。

では、センターの3機能と施設利用促進について説明します。

① シンクタンク機能

「障害者の生涯学習」に関する調査研究に重点に置き、各支援団体や支援学校等のヒアリングを訪問あるいはZoomで17施設に対して行いました。この後、2月2日の第3回調査研究委員会を経て、結果を報告します。また、家庭教育調査のデータ整理もほぼ終わり、年度末には結果がまとまる見込みです。

② 研修・人材育成機能

秋田県生涯学習・社会教育研究大会は、サテライト会場を含めると520人の参加者があり、原委員長には記念鼎談、森田副委員長にはご挨拶をしていただき、成功裡に終えることができました。CNAの皆様のお陰で、「し～なアプリ」での動画配信もしていただきました。ありがとうございました。

また、研修ではその実施回数と内容の精選を行い、研修目的を果たすためにオンラインを活用しました。それによって県外講師や市町村団体からの自粛等によって会場に来られない場合や会場の分散が可能になりました。熟議の際にはソーシャルディスタンスの確保の工夫もしました。このような工夫の結果、各研修においてその趣旨が十分達成されたものと考えております。

オーダーメイド型社会教育主事派遣事業では、各市町村や学校から、打合せ、講演、熟議等の派遣依頼に合計21回協働して支援することができました。

③ 学習活動推進・情報発信機能

スマートカレッジ講座も各研修講座と同様な工夫をしたことにより、十分その趣旨を達成することができたと思われまます。ただ、例年に比べると、受講者数が激減しました。3密を避ける傾向が深刻だったことと、会場の収容力を超えることへの懸念があり、十分に広報できなかったことが要因と思われまます。展示ホールはそのような状況においても、6月以降ほぼ毎月実施することができ、主催の方々と担当が緊密に連携したと思われまます。

④ 施設利用促進

施設利用者の方々には、大変ご協力をいただきまして、お陰様でコロナの感染は認められず、今日まで運営することができております。高齢の方の利用が多いのですが、様々な要望にも総務班が丁寧に対応しており、特に困るような苦情は一切ありません。

以上、概要について終わります。

今年度、各研修や講座において、現代的課題を扱ったことが功を奏し、各メディアに多く取り上げていただきました。特に防災や障害者に関連したものがTV放映や新聞報道で、延べ30社ほどありましたのは、県民の問題意識を高めるうえで大変喜ばしいことでした。詳細については、総務班と学習事業班の班長から説明いたします。

3 総務班説明（総務班長）

総務班について説明します。数値はすべて12月末現在のものです。

資料1 「生涯学習センター利用状況について」から、I貸館の状況について

① 利用人数

1号団体が5,650人、2号団体が5,747人、免除団体が682人で、合計が12,079人でした。前年同月比で1号団体が8,076人減、2号団体が10,960人減、免除団体が1,547人減で、合計で20,583人の減でした。

② 利用件数

1号団体が375件、2号団体が352件、免除団体が42件で、合計が769件でした。前年同月比で1号団体が209件減、2号団体221件減、免除団体が14件増で、合計で416件の減でした。

※1号団体とは、生涯学習に関する事業を行う団体で、秋田県教育委員会の基準を満たした場合は、通常の半額で利用できます。許可から5年で更新申請をしていただきます。

新型コロナウイルス感染防止対策により、利用いただける各研修室等の運用人数を定員の3割～4割と設定しました。利用人数を令和元年12月末の数値から見ると、今年度は約37%の利用であり、感染防止対策における新様式での目標人数は達成されています。

センターの感染症防止対策としては、いわゆる3密をさけるための定員設定、定期的な使用備品の消毒、換気、マスク着用と手洗いの呼びかけ、利用者の健康状態の把握を徹底してまいりました。

次に、Ⅱの事業等についてです。

学習相談及びホール利用は22,512人、あきたスマートカレッジ参加が1,095人、その他主催事業に3,316人、諸室の利用が148人で合計が27,071人でした。前年同月比で、学習相談及びホール利用が29,632人減、あきたスマートカレッジが1,814人減その他主催事業が29,249人減、諸室の利用で500人減で、合計で61,195人の減でした。

コロナ禍の現状で利用者の来所が減少したことにより、学習相談とホール利用及び諸室利用についても減少しました。また、あきたスマートカレッジにおいても、募集定員を削減したことによる減少でありました。その他の主催事業につきましては、コロナウイルス感染予防のため、いくつかの研修をオンライン化（YouTube限定配信、Zoom活用）にするなど、サテライト会場設置等の工夫を行った結果と思われます。

次に、Ⅲ新型コロナウイルス感染防止対策等についてです。

国と県の緊急事態宣言を受けて、令和2年4月21日から5月11日まで休館しました。学習スペース、交流スペースについては、年度当初から休止しておりましたが、6月1日から再開。7月1日からは、連絡先等記入のご協力をお願いしております。講堂及び各研修室のレイアウト変更を行い密集・密接を防ぐための対策を行いました。

次に、資料2稼働率についてです

講堂及び各研修室等の全体の稼働率については、12月末現在で31.2%で令和元年度と比較して18.3%減少しました。コロナ禍の現状により、広い部屋の利用が増加しております。（稼働率別紙参照）

次に、資料3生涯学習センター利用者数状況についてです。

今年度12月末現在の利用者数合計は、39,150人で前年度同月比で81,778人減でありました。今年度当初の目標数値として130,000人の利用を設定しておりましたが、この現状を踏まえて、52,000人に目標数値を変更しました。

最後に修繕等の状況です。

令和2年度から4年度までの予定で、照明設備のLEDへの更新を行います。今年度の工期は令和2年10月30日から令和3年2月12日までで、地下から1階部分、非常階段及びらせん階段の工事を行います。これにともない、障害者スポーツスペース及び交流スペースは、12月23日から2月12日まで休止いたします。

以上、総務班の進捗について簡単にご説明申し上げます。

4 学習事業班説明（学習事業班長）

① シンクタンク機能

まず調査研究については、概要説明のとおり「障害者の生涯学習」に関する調査が2年次であり、昨年度のアナケート調査に引き続き、学校に加え、支援団体等へのヒアリングを中心に推進してまいりました。現在、アンケート及びヒアリングの結果をもとに分析を進めており、間もなく一冊の報告書としてその成果をお示しいたします。

資料には掲載してありませんが、「障害者の生涯学習支援」に関する調査研究とスパイラル化して実施してきた「生涯学習・社会教育関係職員研修」、及びあきたスマートカレッジ「あきたチャレンジゼミ【防災編】」は、共生社会実現に向けた意識改革を体験を通して学ぶ機会として、調査結果を反映させた形で障害のある方、ない方が共に学び、その有効性について確認することができました。これについては、Webサイトにある研修報告及びあきたスマートカレッジ実施報告、「生涯学習センターだより」をご覧ください。

また、昨年度中にセンター中2階に設置済みの「障害者スポーツスペース」は、利用者が増えつつありましたが、コロナ禍及びLED改修工事のため、現在は利用を休止しております。

家庭教育調査についても、現在データ分析が大詰めを迎えており、こちらについても今後の方向を示唆する「まとめ」となるよう鋭意進めているところであります。

もう一つの市町村生涯学習・社会教育の現状把握のための「社会教育状況調査」については7月に完了しており、生涯学習課が発行している「施策の概要」に反映しております。

次に、インターネットによる生涯学習情報提供についてです。

生涯学習支援システムを使い、県・市町村等で企画されている学習情報を提供していますが、今年度はコロナ禍で中止を余儀なくされているものが続出しており、掲載に至らないケースが多く見られます。従って、昨年度と比較するとその数は約6割となっており、この傾向は今後も続くものと思われます。

市町村職員向けの生涯学習支援システム利用研修は予定通り実施しましたが、その後市町村職員が登録する件数は前年比3割減となっています。

運営委員会は、1回目については予定通り実施できたものの、2回目（今回）は低気圧の通過による天候悪化で通常の開催を中止せざるを得ない状況で、このような書面会議という形を取らせていただいておりますことをご了承ください。

② 研修・人材育成機能

資料をご覧ください。

各種研修の実施に際しては、コロナウイルス感染予防のため、いくつかの研修をオンライン化（YouTube限定配信、Zoom活用）し、サテライト会場設置等の工夫により参加者のニーズに応えてまいりました。家庭教育支援指導者等研修については、当初計画を見直し、回数を減らして開催しました。

大学及び関係機関等との連携に関しては、大学等との連携については、これまで同様、コロナ禍でもできる形（Zoom活用等）で実施してまいりました。

特筆すべき事は、企業の協賛を得た事業（ボッチャ交流大会）を実施できたことです。今後もこのような取組に注力してまいりたいと考えております。

市町村等の課題解決に向けた取組である「オーダーメイド型社会教育主事派遣事業」については、コロナ禍で当初予定よりも研修会や熟議、訪問等は縮小したものの、参集人員の調整や分散開催等の工夫により、目的に向けて鋭意努力してまいりました。

2月からは、来年度に向けて今年度の総括と今後の方向性についての確認作業に入る予定です。

地域防災の拠点としての公民館運営に関する学習機会については、1で説明済みです。

生涯学習団体への支援については、今年度新たに企画していた「団体交流会（仮称）」がコロナ禍で延期を余儀なくされたことが残念でしたが、各団体へはアナウンスできたので、今後の活動に「交流」の可能性を残すことができたことは意義があったと思います。

③ 学習活動推進・情報発信機能

あきたスマートカレッジは、コロナ禍のため延期・中止を余儀なくされましたが、資料記載のとおり実施してまいりました。

生涯学習情報紙は、コロナ禍により発行回数を減らし、重要な情報に特化して発行してまいりました。

展示ホールを活用した各種展示についても、コロナ禍により延期・中止を余儀なくされましたが、資料記載のとおり実施しております。

「ブルーの窓口」での相談は、コロナウイルス感染予防のため、シールドを設置して継続実施しております。

県庁出前講座もコロナ禍により、依頼回数は前年よりも減っております。

自作視聴覚教材交流発表会については、通常の開催は困難と判断し、開催時間を短縮するなどの工夫により、実施する方向で動いております。教材の貸出数については、前年度の倍ほどとなっており、これもコロナ禍の影響かと推察しているところであります。

以上、学習事業班の事業進捗について簡単にご説明申し上げます。

5 その他（副所長）

今回は、暴風雪警報が発令され、計画運休とともにホワイトアウトが見受けられる交通状況に鑑み、運営委員の皆様の安全を第一にと考え、急遽やむを得ず書面会議としましたことを、何卒ご了承くださいるようお願い申し上げます。

尚、来年度の事業計画については、現在鋭意策定中です。

基本方針は、今年度と大きく変わることはありません。センターの施設利用促進及び事業の推進テーマ「3機能の有機的ネットワークによる地域及び現代的課題解決のアプローチ」についても、今年度のコンセプトをさらに進める形で運営していくことを考えておりますので、皆様におかれましては、ご理解の上、引き続きご指導くださるようお願いいたします。

つきましては、この説明をご高覧のうえ、皆様からご意見・ご質問・ご提言等をいただきたいと存じます。形式は自由ですので、メールにて返信くだされば幸甚に存じます。

令和3年は、暴風雪やコロナ、交通障害と前途多難な幕開けとなりましたが、所員及びそこから派生するゆるやかなネットワークを駆使して、当センターを運営してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

6 運営委員からのご意見・ご提言等

A 委員

今年度も講座に参加させていただきましたので、その中で感じたことを述べさせていただきます。コロナ禍で大変な一年でしたが、生涯学習センターは感染予防対策が徹底されていて安心して受講することができました。例年とかわりない人数の限られたスタッフ数かと思いますが、試行錯誤を重ねながら私たち利用者のために対策を考えてくださりありがとうございました。検温や手指消毒の準備、マスクの呼びかけはもちろんですが、オンラインを活用しての密にならない、中止にもしないサポートのお陰で、例年とかわりなく学びの機会を得ることができた人も多いかと思います。是非そのノウハウを他の施設にも広めてほしいと思います。

また、この機会にオンラインを活用できる利用者を増やす取り組みも進めていただけたらと思います。各講座にオンラインとリアルの両方の参加者がいてもよいとなると密にもならず、利用者の利便性も高まるのではと思います。来年度に延期された「外国人応援隊」講座の受講も楽しみにしています。留学生や労働者など県内在住の外国人は、日常生活でもいろいろな困り事があります。共に生きていくために自分には何ができるのか参加される皆さんと考えることができたらいいなあとと思います。外国人の生の声も聞きたいです。

余談ですが…先日ある防災の講座の中で、アメリカ人の参加者が、何かあったときに日本人は、英語で話さなきゃいけないと思って答えてくれなかったりがんばって英語にしてくれたりすることがあるけど、私たちは日本に住んでいるから本当に簡単な日本語なら分かることもある。ゆっくり簡単な日本語で話してみたい。と言っていたことにはっとさせられました。

最後に、障害者スポーツスペースを何度か利用させていただきましたがとても楽しかったです。あのスペースを使って、障害のあるなしにかかわらず共に参加できるサークルが誕生すると嬉しいですね。今後もセンターの講座に参加して豊かな心に近づきたいと思います。よろしくお願いいたします。

B 委員

このコロナ禍において、感染防止を念頭におき、様々な取り組みをされていていらっしゃる、そこに弊社のサービスも活用してくださっていることにまずはお礼を申し上げます。コロナウイルスがもたらした今の生活スタイル、仕事スタイルは、この先も継続されていくことと思います。その中で、国がデジタル庁を新設する動き、行政事務がデジタル化さ

れていく動きもあり、あらゆる世代の方々のITリテラシー向上が必要となってくると思います。こういった時代の流れの中で、遅れを取らないためにも、御センターのような学ぶ場が必要不可欠になってくると思います。学ぶスタイルも多様化させていく流れをぜひ作っていくべきだと考えます。今後も新たな学習プログラムを作っていくお手伝いもぜひさせていただければと思います。

C 委員

当行が企画・運営している高齢者向け「あきぎん長生き学校」の取組みについてご紹介します。新型コロナの影響を受け、2020年度のあきぎん長生き学校は例年より5か月遅れ9月からの開催となり、屋外でのガーデニング活動（定員20名）1回、屋内でのワークショップ（長生きノート製作ラボ、定員10名）4回と、人数・回数ともに大幅に規模を縮小しました。（例年4～12月に10回程度、約800人参加）新型コロナの収束見通しがたたないなか、来年度も規模を縮小したかたちでの開催を余儀なくされることが予想されます。

今年度参加された方からは「各種サークル活動やイベントも中止となり、開催を心待ちにしていた」という声が多く聞かれ、ワークショップでは予定時刻を超過するほど活発に意見交換がなされました。一方で、新型コロナ感染を懸念しイベント当日に参加を見合わせる方もいるなど、日々状況が変わるなかでのイベント運営は困難になっています。

また、新型コロナにより家にこもりがちとなったために精神的・身体的なフレイル状態に陥ってしまう懸念もあり、いかに高齢者の健康を維持していくかが課題であると感じています。

生涯学習センターにおいても、あきたスマートカレッジ参加者2019年12月1,095人（前年同月比1,814人減）と約6割減少しているものの、「学び」に対するニーズはあるものと思われます。引き続き、秋田県民へ「学び」の場を提供しつづけるため、特にコロナ禍における開催方法など情報交換の継続をお願いします。

D 委員

貴センターでは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図りながら、ZoomやYouTube等を活用した新たな事業開催等に積極的に取り組んでおり、職員の皆様に敬意を表します。つきましては、令和2年度事業の概要についての説明の中で、新型コロナウイルス感染症対策の一つとして『職員には在宅勤務を奨励してきました。』とありますが、実績があれば方法等について教えてください。簡単ですが、よろしくお願いします。

E 委員

大きくは2点です。

- ① コロナ禍でセンター運営が大変な中、オンライン、動画配信、ソーシャルディスタンスの工夫など、学びの場づくりを諦めず、継続してくださったこと、一県民として本当に感謝いたします。オンライン機器を持っていない方が参加できないなど、課題もあったのではないかと思います。それでも、学びを止めない、どんな形でも続けていく、その中から学びの場への新しい参加の形が見えてきたのではないのでしょうか。ぜひその学びの場づくりのノウハウを共有していただきたく思いました。
- ② シンクタンク機能について、第1回の運営委員会の時に説明をいただき、生涯学習に関する幅広いテーマでの研究内容に驚きました。おそらく多くの県民がこのシンクタンク機能について理解しきれていないと思われます。とてももったいないと思いました。さまざまな形で成果報告をされていることとは思いますが、センターに貼り出すなど、情報を取りに行かなくても目に付く仕掛けをどんどんやっていただき、この成果を開いていってほしいと思います。

F 委員

新型コロナウイルス感染症で事業縮小せざるを得ない中スポーツスペースの開設など、

生涯学習として必要なポイントを押さえているところなど、大変参考になります。利用状況は昨年と比べようもないところですが、今後、必要な事業は何かを考える機会となりました。シンクタンク機能として「家庭教育調査の結果分析及び考察」という項目がありましたが、コロナ生活が1年続いている現在、今一度家庭教育調査を実施し、センターにて分析と考察を記録として残して頂きたいと思います。私たちの活動の中に「チャイルドライン電話相談」という子ども専用の相談活動がありましたが、その中にも親とのギクシャクした関係が生まれたとか、友達と話す時間が減り、うつ状態になっている等の相談があります。秋田は他県ほど深刻でないかもしれませんが実態はどうなのか？事業を計画する上で知りたいところでもあります。よろしくお願いいたします。

G 委員

今年度のセンター事業につきましては、コロナ禍の中で、次々と中止や延期、縮小せざるをえない状況の中、センターの先生たちが様々な工夫やアイデアを凝らしながら動いておられたことに頭が下がります。換気や人数制限、消毒、検温等々大変なご苦勞だったと思いますが、研修会や講座も社会のニーズに合った内容も多かったことから講演依頼など各方面から引っ張りだこだったのではと思います。

防災と障害者支援を絡めた講演では、一例ですが私も参加させていただきましたが、北秋田市の障害者支援大会でのテント張り体験、コロナ対策のための蛍光塗料を使用した手洗いチェック等はとても盛会でした。

また、センターを通じて私どもの奨励員協議会へ附属特別支援学校への授業参観のお話があり、センターの先生たちと一緒に参加させていただきました。その後、学校からの直接連絡で3回ほど奨励員の方たちが数人ずつお邪魔をし、子どもたちと一緒に授業を受け、粘土をこねたり紙芝居をやったりして楽しく交流しました。

お陰様で毎日授業を組み立てていらっしゃる先生たちの頑張りや、キラキラと授業に取り組む子どもたちの真っ直ぐな瞳に、大人になって忘れ去ってしまった思いを思い出させていただいたというか、何かと教えられることも多くありました。

先回の委員会で、これからは分散型の研修会も必要ではというお話をさせていただいたと思いますが、今回のような少人数で動く小分けの活動というものも視野に入れて、人づくり地域づくりを再考すべきかなあと感じました。ありがとうございました。

生涯学習センターの先生たちは、いつもたくさんの方たちや団体とつながっていらっしゃるの、いろいろな観点からの情報収集、発信可能だと思います。そしてそれはとても貴重なことだと思います。これからは気軽にといいますか、信頼関係の中で、敷居の低い生涯学習のネットワークを広げつつ情報発信してくだされば私どもも大いに助かります。これからはよろしくお願いいたします。

H 委員

- ・コロナ禍においても、いち早くにYouTubeによる研修を実施するなど、機敏な対応をされています。
- ・公民館職員の研修では、災害対応をテーマとした内容を取り上げている。命を守るための学習の必要性が言われる中、時宜を得た講座であると思います。
- ・センター開所40周年の記念大会は、オンラインによるライブ配信をされたが、県内各地にサテライト会場を設置し、県内の多くの関係者への配慮を感じる開催であったと思います。また、対面による開催に遜色ないほどの参加者が得られており、今後の効果的な生涯学習事業のあり方として考えていただければと思います。
- ・オーダーメイド型の市町村支援は地道な事業ですが、こうした丁寧な活動は時間をかけて成果を生み出すものと考えています。事業の継続を希望します。
- ・大学の社会教育主事の科目を担当いただき、学生の実践力向上に大きく貢献していただいています。令和3年度からは社会教育主事養成科目の改正後の新科目を担当していただく予定であり、今後も大学との連携を密にして、社会教育主事養成への支援をお願いしたいと思います。

7 総括

運営委員の方々からお寄せいただいたご質問・ご意見・ご感想・ご提言等に対して、当センターから、総括として回答したものを載せましたので、ご覧くださいませ幸いです。

ご意見・ご提言等をくださった運営委員の皆様には、この場をお借りしましてお礼申し上げます。ありがとうございました。引き続き、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

- ・オンラインの活用については、新型コロナウイルスの感染防止対策として、窮余の一策という面はありましたが、新たな事業展開の工夫には不可欠なものとなりました。今後も、オンラインの活用を工夫し、事業の目的達成や利用者の研修にも力を入れてまいりたいと考えております。
- ・新型コロナウイルスによる新しい生活・仕事スタイルを充実させるには、あらゆる世代の方々のITリテラシーの向上を図る必要があると思われます。関係の方々の協力を得て、当センターでも「学びの場」として、オンラインの活用の仕方や普及、その研修に工夫をしてまいりたいと考えております。その中で新しい「学びのスタイル」や「学びの多様化」が少しずつ構築されていくのではないのでしょうか。是非とも協働して、新たな学習プログラムを作ってまいりたいと思います。
- ・ご指摘のとおり、少人数での活動には、体験的な学びや新たな気づきの実感、魅力的な子どもたちあるいは他者の存在など、寄り添う側にも魅力がたくさんあります。コロナ禍で3密回避を前提とした活動の工夫が求められている今、ご意見・ご提言を踏まえ、分散型の研修等、少人数で動く小分けの活動も工夫をして、人づくり・地域づくりへと前進していきたいと思っております。
- ・「あきぎん長生き学校」の取組や状況のご説明をありがとうございました。秋田県民の「学びの場」を提供できるように、今後も新型コロナウイルス対策を徹底して、安心して参加できる講座や研修等の実施をしてまいりたいと考えております。また、オンラインの活用を高齢の方々や「学びの場」を提供する様々な団体に波及するように工夫してまいりたいと考えております。
- ・「安心して受講することができました」と書いていただき、大変嬉しく、安堵しております。また、ご指摘にありました「外国人応援隊」講座についても形を変えてでも実施する方向で検討しているところです。現在照明更新工事のため障害者スポーツスペースは利用できませんが、2月20日頃には再開する予定です。皆様に使っていただけるようご案内しますので、どうか楽しみしてお待ちください。
- ・ご質問にありました「在宅勤務の奨励」については、予め在宅勤務日を設定し、本人の都合を聞いて変更を自由にできるようにして、月報告の出勤率8割を目標に取り組んでまいりました。在宅勤務の場合は、在宅勤務報告書の提出を義務づけております。以上、ご参考になれば幸いです。
- ・調査研究等の成果について、その成果が自然と皆様の目に入る工夫も検討してまいります。
- ・新型コロナウイルス感染予防が生活様式を一変させた現在の家庭教育について調査することは大変有意義なことだと思われます。「チャイルドライン電話相談」の様子からは、家庭にこもることによって、家族関係や友人関係に悪影響が出ているという心配な状況がうかがえます。ただ、家庭教育調査については、定期的な調査として実施しております。

すことをご了承ください。尚、家庭教育支援指導者等研修では、来年度コロナ禍での家庭教育を応援する研修を予定しております。指導者等携わる方の参加をご検討いただき、活動の一助としていただければ幸いです。

- ・ オーダーメイド型社会教育主事派遣事業や災害対応をテーマにした講座・研修、障害者の生涯学習支援事業等は、すぐに成果に結びつかない面もありますが、粘り強く緩やかなネットワークをつくって、人と人をつなぐ契機を広めたいと考えております。そのつながりこそ、我々の事業の成果と言えるでしょう。単に数値目標を掲げるより、一人一人のオーダーにより近づけた課題解決の形を一緒に模索してまいりたいと思います。
- ・ 若い世代の生涯学習という観点からも嬉しいことがありました。貴大学講座では、学生の方々の優れた学びに触れることができ、講師を務めさせていただいていることに感謝しております。他にも、スマートカレッジに参加した高校生が推薦で大学に合格したことも聞き及んでおります。生徒や学生への学習推進活動の広報の仕方について検討したいと思います。以上、あらゆる世代の「学びの場」としての当センターの運営に今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

以上で、第2回運営委員会（書面会議）の内容報告を終わります。